

相合橋 あいあはし ● Aiau-bashi  
〈道頓堀川〉

日本橋の西側、道頓堀川に架かる相合橋。この橋は道頓堀川に架かる橋の中では、やや遅く1680年代に初めて架設されたと伝わる。当初は中橋あるいは新中橋と呼ばれ、宝永4(1707)年に初演された近松門左衛門の「心中重井筒」の一節にも登場している。

橋の名前が変わった時期は分からないが、この橋の南側は芝居櫓が立ち並ぶ芝居町、北側はお茶屋町や遊所であった。これらの町を結ぶ橋は後に「相合橋」という艶のある橋名になった。

明治14(1881)年の記録によれば、江戸時代に比べれば幅の広い橋になった。大正9(1920)年に明治とほぼ同規模の橋が架け替えられたが、木橋だった橋は第二次世界大戦で焼失した。その後しばらくは架設されなかったが、地元の要望で昭和25(1950)年に木橋で復元され、同37(1962)年には永久橋化された。

現在の橋は、昭和58(1983)年に拡幅整備し、橋の上に植物を配した憩いの場を設けた。

